

京工業大学名誉教授で動物学者である本川達雄氏から「ゾウの時間・ネズミの時間・医療の時間」の題で、動物にとって生きるとは時間を生み出すことではないかと大変興味深いお話をうかがいました。講演の最後には、美声で自作の歌を披露していただき、大変楽しい御講演となりました。

特別講演1では東北大学加齢医学研究所の川島隆太教授から「スマート・エイジング～脳を知り、いきいきと生きる～」の題で講演いただきました。その中で、メディア被爆が脳機能にネガティブな影響を与える証拠が数多く発見されていることなど、スマート・エイジングを実現するための生活習慣の見直しの必要性を強調されました。特別講演2では日本医療安全調査機構常務理事の木村壮介氏から「医療事故調査制度－院内事故調査について－」の題で講演いただきました。予期せぬ死亡については、その境目は交錯していて判断に難渋する例があるものの、この制度は再発防止へ繋げる制度であることを再認識して、医療界全体で支え、発展させることが重要であるとの内容であったと思います。特別講演3では厚生労働省大臣官房審議官の椎葉茂樹氏から「地域医療構想と地域包括ケア」の題でお話しいただきました。非常に大きな課題について、ポイントを絞ってお話しいただいたと思います。椎葉茂樹氏の講演に続き、東北大学医療管理学講座教授の藤森研司氏から教育講演3として「地域医療構想とこれからの入院医療のあり方」の講演があり、学会会員から地域医療構想についての理解が深まったとの御意見を頂戴しました。教育講演1は日本医師会副会長の今村 聡氏から「日本医師会における男女共同参画に対する取り組み」の題で、今後もより多様な働き方が可能となるよう日本医師会としての活動をさらに推進させていきたいとお話しでした。教育講演2は早稲田大学創造工学部教授の棟近雅彦氏の「QMSアプローチによる組織的改善の効果的進め方－アンチ、マンネリに対処する－」でした。仙台医療センターは、医療



会場風景

にQMSを導入する目的で設立されたQMS-H研究会に所属し、研究会の中心となり活動されている棟近教授

に指導を仰いでいます。なかなか困難な、改善活動を維持して行く方法についてお話しいただきました。教育



会場風景

講演4ではNTT東日本関東病院名誉院長の落合慈之氏から「医療におけるトレーサビリティ確保の重要性」で講演いただきました。医療現場のスタッフ自らのトレーサビリティ確保や自動認識技術に対する理解が、医療安全や医療における効率性の確保に応える鍵であるとの内容でした。教育講演5ではCOML理事長の山口育子氏から「患者と医療者が協働する医療を目指して」の題で講演いただきました。御自身の経験を踏まえ、患者、医療者間の良好なコミュニケーションを図り患者と医療者が協働できる医療の実現を図る必要があるとお話しでした。

会長講演は今学術総会会長の田所が「働きがいのある職場を目指して」として仙台医療センターの取り組みを紹介しました。

シンポジウムは13題と、お陰様で多数を企画することができました。一部を紹介しますと、1年前の熊本地震、6年前の東日本大震災の被災地である熊本と仙台的共同企画で「東日本大震災の経験が熊本地震に生かされたか？」が催されました。医師や行政の立場から報告いただき、災害時における今後の行政と医療機関の在り方について、また、大災害時のメンタルヘルスの重要性や今後の問題点について議論していただきました。今学術総会のメインテーマに沿いシンポジウム「患者満足、職員満足～それぞれの立場から考える～」を企画しましたが、CS・ESにかかわる取り組みを先駆的に行ってきた施設から発表いただき、会場からは大いに参考になったとのご意見が寄せられました。

最後の市民公開講座は仙台在住の作家の伊集院静氏から「旅と文学」の題で、味のある講演をいただきました。お話しの後には会場から質問を受けていただき、面白いやり取りで大いに盛り上がりました。

学術総会初日の夜は会場の仙台国際センターで懇親会を開催しました。伊達武将隊、青空応援団、東北大学ニューフォレストジャズオーケストラの演奏など楽しんでいただけたのではないかと考えています。